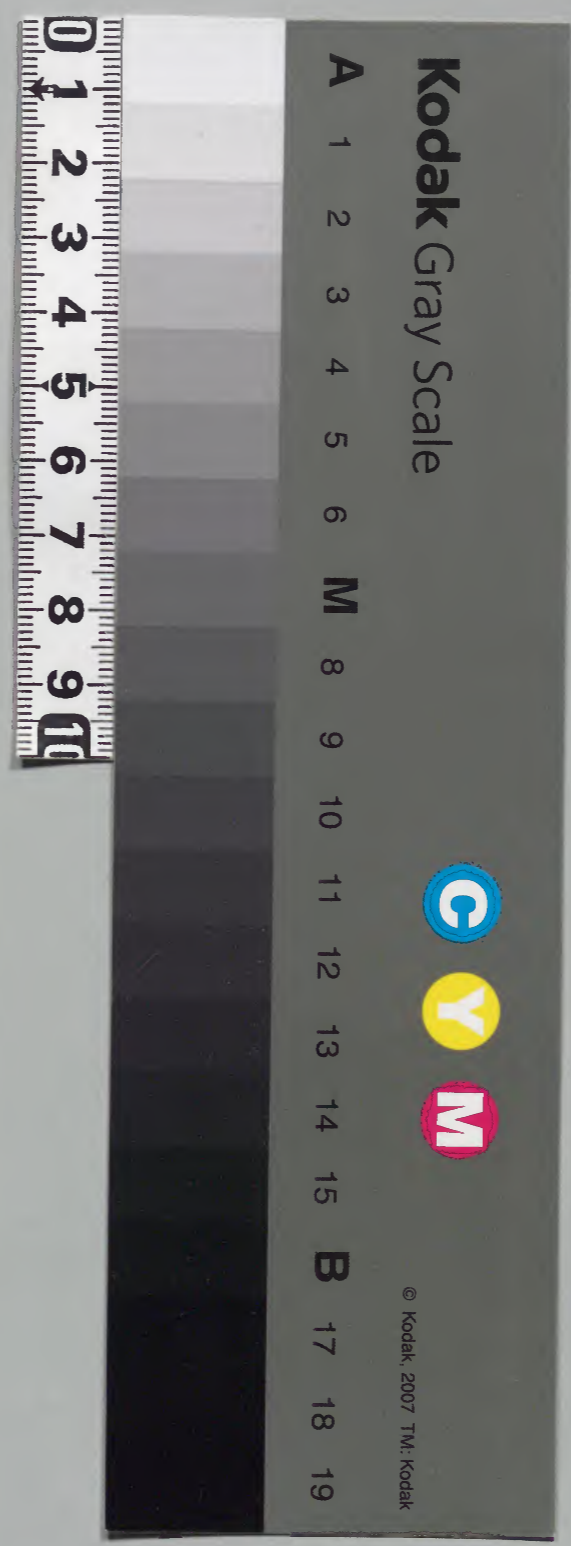


和歌集 十一

和書門
 類 號 函 架 冊
 二〇一八四

內閣文庫
 和書類
 冊 號 函 架
 二〇一八四

內閣文庫	
番號	和 20434
冊數	20 (11)
函號	263 31



萬葉集卷第十一

古今相聞往來歌類之上

此六人の集の中よりいづれか一首のうらむもさし

旋頭歌十七首

百三十三首あり十九首を不之

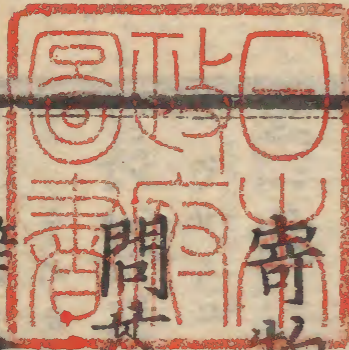
正述心緒歌百四十九首

三百四十四首あり十九首を不之

寄物陳思歌三百二首

問答歌二十九首

譬喻歌十三首



淺草文庫

百三十三首あり十九首を不之

此六人の集の中よりいづれか一首のうらむもさし

ヤモ
八方 一云大夫乃思多鷄備氏

ハヤモトワカオモライモ ハヤモト ハヤモト ハヤモト ハヤモト ハヤモト 惠得吾念妹者早裳死耶雖生吾邇應依人云 鳥籠の鴉うてオキノヲニク宣

各國

コニニキヒモノカタヘソ トコニオチニ ケル スノヨ レキナム トイハ 狗錦綉片叙床落邇祁留明夜志將來得云者

取置待

アサト イテクキミカア ユヒヲ ヌスツユハ ラハヤクオキテイテツ、ワレモ モノスツ 朝戸出公足結乎閨露原早起出乍吾毛裳下

閨奈

ナニセニイノチヲモトナ ナカクホリセムイナリトモ ワカオモライモニヤスクアハナクニ 何為命本名求欲為雖生吾念妹安不相

息緒吾雖念人目多社吹風有數數應相物

人祖未通女兒居守山邊柄朝朝通公不來哀

天在一棚橋何將行禪草妻所云足莊嚴

開木代來背若子欲云余相狹丸吾欲云開木

代來替

右十二首柿本朝臣人磨之歌集出

崗前多未足道乎人莫通在乍毛公之來曲道

為

卷十三 柿本朝臣人磨之歌集出

心る小あり
てあへる
とこわ

百解つ舟
を百つ舟
ふ又恍惚の
ふふ又舟
ふふ又舟
ふふ又舟

英十七
二右水須
奈賀

二十
意慮

オモフヨリニルヨリモノハアルモノヲトヘタツルワスルトオモフ
思依見依物有一日間忘念
カキホ ナスヒトハイヘトモコニレキヒモトキアケルキニモナキ

垣廬鳴人雖云狗錦紉解開公無
コニレキヒモトキアケルキニモナキ

狗錦紉解開夕戸不知有命戀有
ルイノチコヒツカカ

百積船潜納八占刺母雖問其名不謂
ハハトフトモソノナカハ

眉根削鼻鳴紉解待哉何時見念吾君
ハハトフトモソノナカハ

君戀浦經居悔我裏紉結手徒
ハハトフトモソノナカハ

璞之年者竟將敷白之袖易子少忘而念哉
ハハトフトモソノナカハ

白細布袖小端見柄如是有戀吾為鴨
ハハトフトモソノナカハ

我妹戀無之夢見吾雖念不所寐
ハハトフトモソノナカハ

故無吾裏紉令解人莫知及正逢
ハハトフトモソノナカハ

戀事意追不得出行者山川不知來
ハハトフトモソノナカハ

寄物陳思
ハハトフトモソノナカハ

處女等乎袖振山水垣又時由念來吾等者
ハハトフトモソノナカハ

千早振神持在命誰為長欲為
ハハトフトモソノナカハ

石上振神杖神成戀我更為鴨
ハハトフトモソノナカハ

何名負神幣嚮奉者吾念妹夢谷見
ハハトフトモソノナカハ

人のあつて我々の心
はつてあつて我々の心
はつてあつて我々の心

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

ハハトフトモソノナカハ

中
クモリ
クモリ

奥山
竹の神
但一オオモ
奥山
竹の神
但一オオモ

岩の川
岩の川
岩の川

高天白玉
高天白玉
高天白玉

アウミノウニオキシニラナニニラヌトモイモカトイハハカ
 淡海海奥白浪雖不知妹所云七日越來
 オホフチノカトトリノウニイカカナルヒトカモノオモハサ
 大船香取海温下何有人物不念有
 オキツモツカクヲナニノイホホトモナニニコヒワカ
 奥藻隱障浪五百重浪千重敷敷戀度鴨
 ニトコトハハラクワキモヒクウニヨリニニテフカクニオモフ
 人事暫吾妹繩手引從海益深念
 アノミノミオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
 淡海奥島山奥諸吾念妹事繁
 アノミノミオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
 近江海奥滂船重下藏公之事待吾序
 カクニノシタニコエハスハナニニオオオオオオオオオオオオ
 隱沼從裏戀者無乏妹名告忌物矣
 ニオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
 大土採雖盡世中盡不得物戀在
 一物大地土可知其鹿教元
 有能等和親也之善量

コトコトコトコトコトコトコトコトコトコトコトコトコト
 隱慶澤泉在石根通念吾戀者
 コトコトコトコトコトコトコトコトコトコトコトコトコト
 白檀石邊山常石有命哉戀乍居
 アフミノミオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
 淡海海沈白玉不知從戀者令益
 レラタマエキニタハハイマヨハワカタニニセム
 白玉纏持從令吾玉為知時谷
 レラタマエキニタハハイマヨハワカタニニセム
 白玉從手纏不忘念何畢
 オオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
 鳥王間開乍貫緒縛依後相物
 オオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
 香山爾雲位術曳於保保思久相見子等乎後
 コヒムカモクモ井タナヒキオホクアヒミニコラヲノチ
 戀牟鴨
 コヒムカモクモ井タナヒキオホクアヒミニコラヲノチ

故江之婿賦云
不比禁中人柳
終期刺得三
眼
終期刺得三
眼
終期刺得三
眼

サ子カツラノチモアハムトメニニウケヒソワタドニハニツハ
核葛後相(夢耳)受日度年經乍
路邊壹師花灼然人皆知我戀媿
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

或本歌云灼然人知爾家里繼而之念者
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

大野跡狀不知印結有不得吾眷
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

水底生玉藻打糜心依戀此日
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

敷枵之衣手離而玉藻成糜可宿盥和乎待難
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

爾
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

君不來者形見為等我二人植松木君乎待出
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

年の子
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

袖振可見限吾雖有其松枝隱在
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

珍海濱邊小松根深吾戀度人子始
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

或本歌云血沼之海之盐干能小松根母已
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

呂爾戀屋度人見故爾
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

平山子松未有廉叙波我思妹不相止者
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

磯上立回香籠心哀何深目念始
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

橘本我立下枝取成哉君問子等
イチニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

イソクウニニクヒトニリニケリツキテシキモハハ

沖
平山子松
磯上立回
橘本我
立下枝取
成哉君
問子等

天雲爾翼打附而飛鶴乃多頭多頭思鴨君不

座者

妹戀不寐朝明男為鳥從是此度妹使

念餘者丹穗鳥足沾來人見鴨

高山岑行完友衆袖不振來忘念勿

大船真檝繁拔榜間極大戀年在如何

足常母養子眉隱隱在妹見依鴨

肥人額髮結在深木綿染心我忘哉

一云所忘目八方

早人名負夜音灼然吾名謂嫺恃

釵刀諸刃利足踏死死公依

我妹戀度劔刃名惜念不得

朝月日向黃楊櫛雖舊何然公見不飽

里遠春浦經真鏡床重不去夢所見與

真鏡手取以朝朝雖見君飽事無

夕去床重不去黃楊枕射然汝主待固

五ノ月廿二日
...

...

中庸天下國家
...

...

右二首

レキタヘノ
布細布枕動夜不寐思人後相物
敷細布枕人事問哉其枕苔生負爲

展轉る側正るれこ枕のこころも
レキタヘノ
コトコトモ子
又
キモフヒトニハノ子モアハム
ありんとし
物
敷の得
後
の理
負
の
生
苔
の
負
爲

右二首

以前一百四十九首柿本朝臣人麿之歌集出

正述心緒

是千根乃母爾障良婆無用伊麻思毛吾毛事

應成

正述心緒
是千根乃母爾障良婆無用伊麻思毛吾毛事
應成

吾妹子之吾呼送跡白細布乃袂漬左右二哭

ワキヒ
コカ
ワレヲ
キシルト
シロクハ
ノ
ソテヒツマ
テ
ニ
ナキ

四所念

與山之真木乃板戸乎押開思惠也出來根後

チク
ヤマ
ノ
マキ
ノ
イタト
ヲ
シヒキ
キ
ユ
ヤ
イテ
コ
子
ノ
キ

者何將爲

荊薦能一重叫敷而紗眠友君共宿者冷雲梨

カ
リ
コ
モ
ノ
ヒト
ヲ
シ
キ
テ
サ
ヌ
レ
ト
モ
キ
ミ
ト
レ
ヌ
ン
ハ
ヒ
ヤ
ク
モ
ナ
レ

垣幡丹頰經君叫率爾思出乍嘆鶴鳴

カ
キ
ツ
ハ
タ
ニ
ホ
ノ
キ
ニ
ラ
イ
サ
ナ
ニ
キ
モ
ヒ
イ
テ
ツ
ナ
ケ
キ
ツ
ル
カ
モ

恨登思狹名盤在之者外耳見之心者雖念

ウ
ズ
ミ
ム
ト
オ
モ
ヒ
テ
セ
ナ
リ
ハ
カ
ハ
シ
ニ
ハ
ヨ
ソ
ノ
ミ
ミ
レ
コ
ロ
ハ
オ
モ
ヘ
ト

散頰相色者不出小文心中吾念名君

サ
ニ
ツ
ラ
フ
イ
ハ
ニ
ハ
イ
テ
ス
ス
ク
キ
モ
コ
ノ
ロ
ウ
チ
ニ
ワ
カ
キ
モ
ハ
ナ
ク
ニ

サカツサカカ
子テ帳ミムト
思ヒテアリシカ
ハの心し古今
なり平の心
記みろし
ふれみろし
とるし
とるし
とるし

不相思人之故可璞之年緒長言戀將居

况乃行者不念言故人爾事痛所云物乎

氣緒爾妹乎思念者年月之往覽別毛不所念

鬼

足千根乃母爾不知所知吾持留心者吉惠君之

隨意

獨寢筭焚朽目八方綾席緒爾成及君乎之將

待

相見者千歲八去流否乎鴨我哉然念待公難

爾

振別之髮乎短彌青草髮爾多又盪妹乎師曾

於母布

徊徘徊往箕之里爾妹乎置而心空在土者踏鞠

若草乃新手枕乎卷始而夜哉將間二八十一

不在國

吾戀之事毛語名草目六君之使乎待八金手

録倉石大屋
あひひら後
あひひら後
あひひら後
あひひら後
あひひら後

待

相見者千歲八去流否乎鴨我哉然念待公難

爾

振別之髮乎短彌青草髮爾多又盪妹乎師曾

於母布

徊徘徊往箕之里爾妹乎置而心空在土者踏鞠

若草乃新手枕乎卷始而夜哉將間二八十一

不在國

吾戀之事毛語名草目六君之使乎待八金手

不在國

吾戀之事毛語名草目六君之使乎待八金手

吾戀之事毛語名草目六君之使乎待八金手

吾戀之事毛語名草目六君之使乎待八金手

吾戀之事毛語名草目六君之使乎待八金手

吾戀之事毛語名草目六君之使乎待八金手

吾戀之事毛語名草目六君之使乎待八金手

吾戀之事毛語名草目六君之使乎待八金手

六

寤者相縁毛無夢谷間無見君戀爾可死

誰彼登問者將荅爲便乎無君之使乎還鶴鴨

不念舟到者妹之歡三跡笑牟眉曳所思鴨

如是許將戀物衣常不念者妹之手本乎不纏

衣裳有寸

如是谷裳吾者戀南玉梓之君之使乎待也金

手武

妹戀吾哭涕敷妙木枕通而袖副所沾

或本歌云枕通而卷者寒母

立念居毛曾念紅之赤裳下引去之儀乎

念之餘者爲便無三出曾行之其門乎見爾

情者千遍敷及雖念使乎將遣爲便之不知久

夢耳見尚幾許戀吾者寤見者益而如何有

對面者面隱流物柄爾繼而見卷能欲公毳

且戸遣乎速莫開味澤相目之乏流君今夜來

仲言化眼此
麻用海相中

座有

玉垂之小簀之垂簾乎往褐寐者不眠友君者

通速焉

垂乳根乃母白者公毛余毛相鳥羽梨丹年可

經

愛等思篇來師莫忘登結之紉乃解樂念者

昨日見而今日社間吾妹兒之幾許繼手見卷

欲毛

カク人目モナキ
古クニアル歌ヲ
メクマシクハ
若カモ死シト
イハレ後シカ
ラストシカ

人毛無古郷爾有人乎愍又也君之戀爾令死

人事之繁間守而相十方八反吾上爾事之將

繁

里人之言縁妻乎荒垣之外也吾將見惡有名

國

他眼守君之隨爾余共爾夙興衣裳裾所沾

夜干玉之妹之黑髮今夜毛加吾無床爾糜而

宿良武

高麗集卷下

九

人の子の死
を垣に
てうりし
またとみ

式丸右内
之九黄倉
後出入内
主位上
六位以下
姓名此後
之其宮前
令附士炬火

ソメキハサワキ
驛倉舎切
驛馬也ソメキ
とらあやうホ
為驛と云れ
るなり驛リ
驛ハ動也
驛

ハナクハレアカキコシニヒトメアヒミシコユエチムナキツ
花細葦垣越爾直一目相視之見故千遍嘆津
色出而戀者人見而應知情中之隱妻波母
相見而者戀名草六跡人者雖云見後爾曾毛

戀益家類
凡吾之念者如是許難御門乎退出米也母
將念其人有哉烏玉之每夜君之夢西所見
或本歌云夜晝不云吾戀渡
如是耳戀者可死足乳根之母毛告都不止通

為
大夫波友之驂爾名草溢心毛將有我衣苦寸
偽毛似付曾為何時從鹿不見人戀爾人之死
情左倍奉有君爾何物乎鴨不云言此跡吾將
竊食
面忘太爾毛得為也登手握而雖打不寒戀之
奴

為
大夫波友之驂爾名草溢心毛將有我衣苦寸
偽毛似付曾為何時從鹿不見人戀爾人之死
情左倍奉有君爾何物乎鴨不云言此跡吾將
竊食
面忘太爾毛得為也登手握而雖打不寒戀之
奴

カクシツ、ワカニツルニアカモヨノヒトニナソツ子ナラテクニ
如是為乍吾待即有鴨世人皆乃常不在國

人事茂君玉梓之使不遺忘跡思名
ヒトコトヲシクニキニタマツサノソカヒモヤラスワスルトモナ

大原古郷妹置吾稻金津夢所見乞
ヒトコトヲシクニキニタマツサノソカヒモヤラスワスルトモナ

夕去者公來座跡待夜之名凝衣令宿不勝為
ウセオモノスキニハアルラシメハタマノユメニモミヌウケヒテヌレト

不相思公者在良思黑玉夢不見受早宿跡
イハ子ア三ヨニチユカレトモヘトモイモニヨリテハレシヒカ子ツモ

石根踏夜道不行念跡妹依者忍金津毛
ヒトコトノシキモルトアハサレハツ井ニハフカオモワスレナム

人事茂間守跡不相在終八子等面忘南
ヒトコトノシキモルトアハサレハツ井ニハフカオモワスレナム

戀死後何為吾命生日社見幕欲為禮
ヒトコトノシキモルトアハサレハツ井ニハフカオモワスレナム

敷細枕動而宿不所寢物念此夕急明鴨
ユカメワルクトカヨカトモサスレテアハレワキモユマナツハアラム

不往吾來跡可夜門不閉何怜吾妹子待筒在
ユメニタニナカモミエヌユレトモワレカモトコヒノレキニ

夢谷何鴨不所見雖所見吾鴨迷戀茂爾
ナクサムルゴハナレニカクシノニコヒヤワタラムツキニニケニ

名草漏心莫二如是耳戀也度月日殊
ナクサムルゴハナレニカクシノニコヒヤワタラムツキニニケニ

或本歌云與津浪敷而耳八方戀度奈牟
イカニレテワスルモソソワキモコニコヒマサレトワスラレナクニ

何為而忘物吾妹子丹戀益跡所忘莫苦二
トホクアレキニラツコフルタニホコノサトヒトニナニワレニツヤモ

遠有跡公衣戀流玉梓乃里人皆爾吾戀八方
レルニナキコヒジモスルカユフサレハヒトノマキテ子ナムコユニ

驗無戀毛為鹿暮去者人之手枕而將寐兒故
レルニナキコヒジモスルカユフサレハヒトノマキテ子ナムコユニ

為鹿分云玉梓
ノ里ノ道
程一里二里
トイハハル心
ト定家々ノ元

百世下千代下生有目八方吾念妹乎置嘆
現毛夢毛吾者不思寸振有公爾此間將會十
羽

黒髮白髮左右跡結大王心一乎令解目八方

心乎之君爾奉跡念有者縱比來者戀乍乎將

有

念出而哭者雖泣灼然人之可知嘆為勿謹

玉粹之道去夫利爾不思妹乎相見而戀比鴨

人目多常如是耳志侯者何時吾不戀將有

敷細之衣手可禮天吾乎待登左盥子等者面

影爾見

妹之袖別之日從白細乃衣片敷戀管曾寐留

白細之袖者間結奴我妹子我家當乎不止振

四二

夜千玉之吾黒髮乎引奴良思亂而反戀度鴨

今更君之手枕卷宿米也吾紉緒乃解都追本

萬葉集卷下

二

萬葉集卷下

二

名

白細布乃袖觸而夜吾背子爾吾戀落波止時

裳無

夕卜爾毛占爾毛告有今夜谷不來君乎何時

將待

眉根搔下言借見思有爾去家人乎相見鶴鴨

或本歌曰眉根搔誰乎香將見跡思尔氣長

戀之妹爾相鴨

一書歌曰眉根搔下伊布可之美念有之妹

之容儀乎今日見都流香裳

敷枿乃枕卷而妹與吾寐夜者無而年曾經來

奥山之真木之板戸乎音速見妹之當乃霜上

爾宿奴

足日本能山櫻戸乎開置而吾待君乎誰留流

月夜好三妹二相跡直道柄吾者雖來夜其深

去來

結紉解日遠敷細吾木枕蘿生來

夜干王之黑髮色天長夜叫手枕之上爾妹待

覽蚊

真素鏡直二四妹乎不相見者我戀不止年者

雖經

真十鏡手取持手朝且見入時禁屋戀之將繁

里遠戀和備爾家里真十鏡面影不去夢所見

社

右一首上見柿本朝臣人磨之歌中也但以

句句相換故載於茲

劔刀身爾佩副流六天也戀云物乎忍金手武

劔刀諸刃之於荷去觸而所殺鴨將死戀管不

有者

酒鼻乎曾噫鶴劔刀身副妹之思來下

梓弓末之腹野爾鷹田為君之弓食之將絕跡

念瓊星

續集卷廿

廿六

月二人ノ...
種...
ル...

カツラキ ノ ソツ ヒコニ ユミアラキ ニ 五

葛木之其津彦真弓荒木爾毛憑也君之吾之

名告兼

梓弓引見絶見不來者不來者其其乎奈何

不來者來者其乎

時守之打鳴鼓數見者辰爾波成不相毛恠

燈之陰爾蚊蟻欲布虛蟬之妹蛾咲狀思面影

爾所見

玉戈之道行瘦伊奈武思侶數而毛君乎將見

因母鴨

小墾田之板田乃橋之壞者從拵將去莫戀吾

妹

宮材引泉之追馬喚犬二立民乃息時無戀渡

可聞

住吉乃津守綱引之浮笑緒乃得干蚊將去戀

管不有者

東細布從空延越遠見社目言踈良米絕跡間

ヨシモ...

ヨシモ...

ヨシモ...

ヨシモ...

ヨシモ...

ヨシモ...

ヨシモ...

ヨシモ...

ヨシモ...

ヨシモ...

ヨシモ...

ヨシモ...

神名...
高智郡...
神...

美七...
トヨリ...
東細布...

也

カニカクニモノハ オモハスヒ タ ヒトノ ウツスミチハノ タ、ヒトスチニ
云云物者不念斐太人乃打墨繩之直一連二
アヒヒキキノヤニタモルヲチカクカヒノレタコカレノニワカコヒ
足日木之山田守翁置蚊火之下粉枯耳余癩

居父

ソキキイタテフケルアハサラハイカニセムトカ
十寸板持蓋流板目乃不令相者如何為跡可

吾宿始兼

ナニハヒトアヒヒタグヤノスヒタレトギノカツニコソトコ
難波人葦火燎屋之酢四手雖有已妻許增常

目頰次吉

イモカ カニアケサハハノハナレコニアアユキチラレハヌ
妹之髮上小竹葉野之放駒蕩去家良思不合

思者

ウソオトノトドトモスレハニツカケニイテソミツルモハキミ
馬音之跡杼登毛為者松陰爾出曾見鶴若君

香跡

キミコトイ子又アサケニタレノレハウラアサケリケニキカスル
君戀寢不宿朝明誰乘流馬足音吾聞為

クシナノスソヒカニチヲナカニオキテワレヤカヨハムキニヤキマサム
紅之欄引道乎中置而妾哉將通公哉將來座

一云須蘇衝河乎又曰待香將待

天飛也輕乃社之齋槻幾世及將有隱孀其毛

神宮高市
神宮高市
神宮高市

修験の
修験の
修験の

夏の風...
ヨシエツヤシ
フカヌカセコエタマクキアチアチサチニシワシツクヤシ

級子八師不吹風故玉速開而左宿之吾其悔
寸 窓超爾月臨照而足檜乃下風吹夜者公乎之
其念

河千鳥住澤上爾立霧之市白兼名相言始而
者 吾背子之使乎待跡笠毛不著出乍其見之雨
落又爾

辛衣君爾内著欲見戀其晚師之雨零日乎
彼方之赤土少屋爾霰霖零床共所沾於身副
我妹 笠無登人爾者言手雨乍見留之君我容儀志
所念 妹門去過不勝都又方乃雨毛零奴可其乎因
將為 夜占問吾袖爾置白露乎於公令視跡取者消

カヲコロモキミニニ
ウチキセミクホリコヒソ
クラレ
アメノフルヒ
ヲ

カガナニトヒトニ
イヒテ
アモソ
ミト
リレ
キミナ
スカタレ

トコキスキカ
子
ツ
ヒサカタノ
アメモ
フラヌ
カソ
ヲ
ヨレニ

トフワカニ
ヨモエニ
チ
ツク
ツユヲ
キミニ
ニ
セ
ムト
トレハ
キニ

不告

妹之名毛吾名毛立者惜社布仕能高嶺之燒

不渡

或歌曰君名毛妾名毛立者惜己曾不盡乃

高山之燒乍毛居

往而見而來戀敷朝香方山越置代宿不勝鴨

安太人乃八名打度頼速意者雖念直不相鴨

玉蜻石垣淵之隱庭伏以死汝名羽不謂

明日香川明日文將渡石走遠心者不思鴨

飛鳥川水往增彌日異戀乃增者在勝申目

真薦刈大野川原之水隱戀來之妹之紉解吾

者

惡氷木之山下動逝水之時友無雲戀度鴨

愛八師不相君故徒爾此川瀬爾玉裳沾津

泊湍川速見早湍乎結上而不飽八妹登問師

公羽裳

古神坐而神託
神名隱伊勢
志都而射加神社
とよもあれと
高耶多と
可成多と
ユタニと
あつや
十

青山之石垣沼間乃水隱爾戀哉度相縁乎無
四長鳥居名山響爾行水乃各耳所縁之内妻
波母

一云名耳之所縁而戀管哉將在

吾妹子吾戀樂者水有者之賀良三超而應遊

衣思

或本歌句云相不思人乎念父

狗上之鳥籠山爾有不知也河不知二五寸許

頰余名浩奈

與山之木葉隱而行水乃音聞從常不所忘

言急者中波余騰益水無河絕跡云事乎有超

名湯目

明日香河遊湍乎早見將速登待良武妹乎此

日晚津

物部乃八十氏川之急瀬立不得戀毛吾為鴨

一云立而毛君者忘金津藻

二五寸の心
標命論
二五寸の心
標命論
二五寸の心
標命論

世ノワカナナツケスナ
オクヤミノ
コトハクハ
ナカハ
ヨト
ミ
ナセカハ
タユテ
コトゾ
アリコス

オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス

オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス

オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス

オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス

オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス

オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス

オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス
オトキニヨリツ子ワスラレス

不知

信吉の三件と同一使若の岸の事ありと云ふも是也
レラミナコニツノハニフノイロニイテ、イハスレノニソ、ワカコフラク

白細砂三津之黄土色出而不云耳衣我戀樂

者 八童世嘉初、幼の保つるをミタヘスハ百ツツ土の答え白粉の真土といひ、美七白粉ニホフ信吉の山川といふ物

風不吹浦爾浪立無名乎吾者負香逢者無二

一云女跡念而 紀伊ハを沖に波ノクニ、ナツニ、ウラニ、ヨルナニ、アヒエモ、オキテワカキモハナクニ

酢蛾島之夏身乃浦爾依浪間文置吾不念君

淡海之海與津島山奥間經而我念妹之言繁

霰零遠津大浦爾縁浪縦毛依十方憎不有君

各々の浦に
伊の浦の名
の浦の遠に

木海之名高之浦爾依浪音高島不相子故爾

牛窓之浪乃益左猪島響所依之君爾不相鴨

將有 三此 貞能 納

與波邊浪之來縁左太能浦之此左太過而後

將戀可聞 三此 貞能 納

白浪之來縁島乃荒磯爾毛有申物尾戀乍不

有者 三此 貞能 納

蓋滿者水沫爾浮細砂裳吾者生鹿戀者不死

レホミテハ、ミ、ナハ、ニ、ウカフニナコニモ、ワレハ、ナリレカコヒ、レナス

而テ南ス昔ニ木ノ末ノ雨ノ初ノ晴ノ雲ノ皆ノ主ノ其ノ戀ノ者ノ不レ交ル

住ス吉ノ之ハ城ノ師ノ乃チ浦ノ箕ノ爾ノ布ノ浪ノ之ハ數ノ妹ノ乎ハ見レ因レ欲ス

得ル風ノ緒ノ痛ク甚ク振レ浪ノ能ク間ノ無ク吾ノ念ノ君ノ者ハ相レ念レ濫レ香ヲ

大キ伴ト之ハ三ツ津ノ乃チ白ク浪ノ間ノ無ク我ノ戀ノ良ク苦ク乎ハ人ノ之ハ不レ

知ル久ク大キ船ノ乃チ絶レ多ク經レ海ノ爾ノ重ク石ノ下ニ何ノ如ク為ル鴨ノ吾ノ戀ノ將チ

止ム水ノ沙ノ兒ノ居ル與レ麿ノ磯ノ爾ノ縁ノ浪ノ往ル方ノ毛ノ不レ知ル吾ノ戀ノ久ク

波ハ大キ船ノ之ハ舳ノ毛ノ艦ノ毛ノ依ル浪ノ依ル友ノ吾ノ者ハ君ノ之ハ任レ意ス

大海ノ二ハ立ル良ク武ノ浪ノ者ハ間ノ將チ有ル公ノ二ハ戀レ等ク九ノ止ム時ニ

毛ノ梨ノ牡ノ鹿ノ海ノ部ノ乃チ火ノ氣ノ燒レ立ル而チ燎レ鹽ノ乃チ辛ク戀レ毛ノ吾ノ為ル

鴨ノ右ニ一首或チ云フ石ノ川ノ君ノ子ノ朝ノ臣ノ作ル

右ニ一首或チ云フ石ノ川ノ君ノ子ノ朝ノ臣ノ作ル

右ニ一首或チ云フ石ノ川ノ君ノ子ノ朝ノ臣ノ作ル

右ニ一首或チ云フ石ノ川ノ君ノ子ノ朝ノ臣ノ作ル

右ニ一首或チ云フ石ノ川ノ君ノ子ノ朝ノ臣ノ作ル

右ニ一首或チ云フ石ノ川ノ君ノ子ノ朝ノ臣ノ作ル

右ニ一首或チ云フ石ノ川ノ君ノ子ノ朝ノ臣ノ作ル

右ニ一首或チ云フ石ノ川ノ君ノ子ノ朝ノ臣ノ作ル

中中二君二不戀者牧浦乃白水郎有申尾玉

藻刈管

或本歌曰中中爾君爾不戀波留鳥浦之海

部爾有益男珠藻刈刈

鈴寸取海部之燭火外谷不見人故戀比日

湊入之葦別小舟障多見吾念公爾不相頃者

鴨

庭淨奥方擲出海舟乃執棹間無戀為鴨

味鎌之塩津乎射而水手船之名者謂手師乎

不相將有八方

大舟爾葦荷刈積四羨見似裳妹心爾乘來鴨

驛路爾引舟渡直乘爾妹情爾乘來鴨

吾妹子不相又馬下乃阿倍橘乃蘿生左右

味乃往渚沙乃入江之荒磯松我乎待兒等波

但一耳

吾妹兒乎聞都賀野邊能糜合歡木吾者隱不

澁波寒川即
二庵治の浦
係捕とふ不
りともく
はけい
こり
いん

水跡として
舟をかく
令まが解
り

初巻
恋倍不知版
素似細小
昔也
あは俗
花相
足指
今あり
上吉
ま

牧の
他
不
不
不

我

名者謂手師乎

乘來鴨

吾者隱不

ニ
レラル

爾所知名
紅之淺葉乃野良爾苜草乃東之間毛吾忘渚

紅之淺葉乃野良爾苜草乃東之間毛吾忘渚
菜

為妹壽遺在苜薦之念亂而應死物乎

吾妹子爾戀乍不有者苜薦之思亂而可死鬼

乎
三島江之入江之薦乎苜爾社吾乎婆公者念

三島江之入江之薦乎苜爾社吾乎婆公者念

有來
有來

足引乃山橘之色出而吾戀南雄八目難為名

葦多頭乃颯入江乃白管乃知為等乞痛鴨

吾背子爾吾戀良久者夏草之苜除十方生及

如
如

道邊乃五柴原能何時毛何時毛人之將縱言

乎思將待
乎思將待

吾妹子之袖乎憑而真野浦之小管乃莖乎不

著而來二來有
著而來二來有

コトニ思痛
心の中又云

用明記赤橋此云伊知此とらり極の敷るを俗よイイシといはて大木とあるは心七極あるをハホといハ

三島江之入江之薦乎苜爾社吾乎婆公者念

コトニ思痛
心の中又云

万葉集別記等四
種は並立の未
起きありつ
ぬてそ厚ま
赤き名のいぬ
ふさぬ和名と
ス

吾妹子之奈何跡裳吾不思者含花之穗應咲
ワキモ コカ ナニ トモ ソラキモ ハ子ハ フハナナノ ホニサキ又ヘシ
イカニトモワテ マヨシヨクハノモノハハカクテミヤ
マシクハカクテミヤマシクハカクテミヤ

隱庭戀而死靛三苑原之鷄冠草花乃色二出
シヒニハコヒテ スヌトモ ミソノフノ カラアサノ ハナノ イロニ イテ
メ ヤモ 種類古集云鴨頭草又作鷄冠草云

目八方
依此義者可和月草歟
サクハ十八 スクルトキアレト ワカコフル コノロウチハ ヤムトキモ ナニ

開花者雖過時有我戀流心中者止時毛梨
ヤニフキノ ニホ ル イモカ ハ子ス イロノ アカモ ノ スカカ

山振之爾保敬流妹之翼酢色乃赤裳之爲形
ユメニ 三エ ツツシツシツ 判中

夢所見管
アヌツチノ ヨリアハムカキリモノヲ ノ タエシト オモフイモカ ア各三ツ

天地之依相極玉緒之不絶常念妹之當見津
余の心ニヒツヒル オモハ ハチ クルニタモノヲ ノ タエテ ミタレナレラハ シルトモ

生緒爾念者誓玉緒乃絶天亂名知者知友
ニヒツヒル オモハ ハチ クルニタモノヲ ノ タエテ ミタレナレラハ シルトモ

玉緒之絶而有戀之亂者死卷耳其又毛不相
タモノヲ ノ タエエ タル コヒノ 三流ニハ ナニクノミソノ 一タモ アハス
シテ ありありの糸

爲而
タモノヲ ノ ク クリヨセツ、スエツ共ニユキ、 ワカレテオチテラニアラム

玉緒之父栗縁乍末終去者不别同緒將有
カタイトモニタキタルメノ ヲ、 ヨハミミタレハ、 ナムヒトノ ニルヘク

片絲用貫有玉之緒乎弱亂哉爲南人之可知
タモノヲ ノ 一ツシコ、ロニヤトニツキル、エキカハルニテイモニ アハサ ラム

玉緒之島意哉年月乃行易及妹爾不逢將有
タモノヲ ノ 島意哉年月乃行易及妹爾不逢將有

玉緒之間毛不置欲見吾思妹者家遠在而
タモノヲ ノ 間毛不置欲見吾思妹者家遠在而

隱津之澤立見爾有石根從毛遠而念君爾相
タモノヲ ノ 隱津之澤立見爾有石根從毛遠而念君爾相

卷者
古事代記ニ行ハタカ
妻許母理豆能
忘多用ハツ
ユツハメカワマ

鳥長の保
ナカキコ
島ハ
後ハ
ヒ

紅梅庄知村
今館等と
能くも
あまの
あまの
あまの
あまの

沖
四登字苑云
鯉魚一名似
蛤偏若石丹
乾可食
以乃の
若石と

木國之鮑等濱之忘具我者不忘年者雖歷
水泳玉爾接有磯貝之獨戀耳年者經營
住吉之濱爾縁云打背貝實無言以余將戀八
方
伊勢乃白水郎之朝魚夕菜爾潛云顛貝之獨
念荷指天
人事乎繁跡君乎鶉鳴人之古家爾相語而遣
都

旭時等鷄鳴成縱惠也思獨宿夜者開者雖明
大海之荒磯之渚鳥朝名且名見卷欲乎不所
見公可問
念友念毛金津足檜之山鳥尾之永此夜乎
或本歌曰足日本乃山鳥之尾乃四垂尾乃
長求夜乎一鴨將宿
里中爾鳴奈流鷄之喚立而甚者不鳴隱妻羽
毛

萬葉集卷十一

四十二

一云里動鳴成鷄

サトトヨミナクナルカテ

高山爾高部左渡高高爾余待公乎待將出可

カクヤニタカヘサワタリタカクニワカニツキミヲニキイテムカ

聞

伊勢能海從鳴來鶴乃音抒侶毛君之所聞者

イセノウミニナキケルタツノオトト口モキミカキコエハ

（池你）

吾將戀八方

ワキモコニコルニカアラムオキニヌムカモノウキ子ノヤスゲ

吾妹兒爾戀爾可有牟與爾住鴨之浮宿之安

雲無

可旭

クモナキ
千鳥數鳴白細乃君之手枕未厭君

去我門のちの
しりひひ百十
ちちちりり
れとるる
まさか沖

問答

眉根搔鼻火 紉解待八方 何時毛將見跡 戀來
吾乎

念吾君 六下り
はま上

右 上見柿本朝臣人麿之歌中但以問答故

累載於茲也

今日有者鼻之鼻之火 眉可由見 思之言者君
西在來

右二首

音耳乎聞而哉戀犬馬鏡目直相而戀卷裳太

此言乎聞跡乎真十鏡照月夜裳闇耳見

右二首

吾妹兒爾戀而為便無三白細布之袖反之者

夢所見也

吾背子之袖反夜之夢有之真毛君爾如相有

右二首

吾戀者名草目金津真氣長夢不所見而年之

經去禮者

真氣求夢毛不所見雖絕吾之片戀者止時毛

不有

右二首

浦觸而物魚念天雲之絕多不心吾念魚國

浦觸而物者不念水無瀨川有而毛水者逝云

物乎

十三世四天等の
ユキノマ
同ノウ天雲
ノ外天雲乃
九世天雲乃
別石徳若

卷一 雲居金鏡心射光此多
十五 安麻久毛能多由多此
夜のしを之行葉のてり
十二 天雲ノ
奥香モシラ

右二首

垣津旗開沼之管乎笠爾縫將著日乎待爾年
曾經去來
カキツ ハタサキ又ノ スナヲ カサニ ヌヒキム ヒヲ マツニ トシ
ヤヘニ ナル 年を二ツと云ふ也 笠は日待の意也 縫は日待の意也 著は日待の意也 日乎待爾年

臨照難波管笠置古之後者誰將著笠有魚國
カシテルヤナニハ スカ、サ 相キフルニ ノキハ 从カキム カサナラナクニ

右二首

如是谷裳妹乎待南左夜深而出來月之傾二
手荷
カク タニモ イモヲ マナムサヨ フチテ イテクルツキノ カタラクニ
テニ ヲリウツロフツキノ カケラヒニモチヤスラフニ サヨ フケニ ケリ

木間從移歷月之影惜徘徊爾左夜深去家里
コノマ ヲリウツロフツキノ カケラヒニモチヤスラフニ サヨ フケニ ケリ

右二首

栲領巾乃白濱浪乃不肯綠荒振妹爾戀乍曾
居
タクヒ レノ シラハマナミノ ヲリモアヘスアラフルイモニ ニヒツ、ソ
ツル 居

一云戀流已呂可母

加澈良未爾君社吾爾栲領巾之白濱浪乃綠
時毛無
カヘ ラマ エ キミコソワレニ タクヒ レノ シラハマナミノ ヲル
トキモ ナシ

右二首

念人將來跡知者八重六倉覆庭爾珠布益乎
オモヒトコトム トレリセバヤヘム クラハヒタルニハニ タマシカマシラ

タハレケル イヘモ ナニ セム ヤヘム クラハヒタコヤモ イモト
玉敷有家毛何將爲八重六倉覆小屋毛妹與
居者

右二首

カクシツアリナクサメ デタラノノタエテワカレハス
如是爲乍有名草目手玉緒之絶而別者爲便
可無

紅花西有者衣袖爾染著持而可行所念

右二首

譬喻

クレナ井ノコ ソメノ キヌツ エタニキ ハ ヒトノ ミラクニ ニ ホヒ
紅之深深乃衣乎下著者人者見久爾仁寶比
將出鴨

衣霜多在南取易而著者也君之面志而有

右二首寄衣喻思

梓弓弓束卷易中見判更難引君之隨意

右一首寄弓喻思

氷沙兒居渚座船之夕盞乎將待從者吾社益

右一首寄船喻思

ヤマカハニ 山河爾 荃乎伏而不肯 盛年之八 歲乎 吾竊舞 師 仙差のつらきものひきかきしるをいふは 仙差のつらきものひきかきしるをいふは

右一首寄魚喻思

アヒカモノノ スタク イケミツニサルトモ マケニツカタニ ワレコエメ ヤエ 葦鴨之 多集池水 雖溢 儲溝方爾 吾將越 八方

右一首寄水喻思

日本之 室原乃毛 桃本 繁言 大王物乎 不成不 止 式大和守院初室生龍心神 和名別下初室原

右一首寄菓喻思

真葛延 小野之 淺茅乎 自心 毛人 引目 八面 吾 莫名國 クヌハフヲ ヌノハノリトキマタハキス ヤ ナリナムニ エマスカノサ

三島管 未苗在 時待者 不著也 將成 三島管 筮 三吉野之 水具 麻我管乎 不編爾 刈耳 荊而將 亂跡也 ナムト ヤ

河上爾 洗若菜之 流來而 妹之 當乃 瀬社 因目 右四首寄草喻思 如是為哉 猶八成 牛鳴 大荒木之 浮田之 杜之

成林の屋号 三年のりんし字 ともり

標爾不有爾

右一首寄標喻思

幾多毛不零雨故吾背子之三名乃幾許瀧毛

動響二

右一首寄瀧喻思

萬葉集卷第十一



